

# 令和8年度 書道Ⅰ シラバス

科目	書道Ⅰ	単位数	2 単位
		対象 部・年次	1・2・3部 3年次

**目標** 書の可能性、表現の喜びを感じ取るとともに、書を愛好する心情を育てる。また、書に親しむ活動を通して、書写能力の向上を図り、自己を表現するための能力を伸ばす。

## ■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>趣旨</b>	基本的な用具・用材の知識や扱い方に関心を持ち、理解させる。様々な漢字作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を学ぶ。自己の技量を高め基礎的な知識・技能を身に付けさせる。	楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。また、楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	芸術科書道の学習に関心を持ち、書道で学習することや、漢字の書体の変遷、その背景にある歴史や文化に関心を持ち、主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
<b>北高力</b>	①基礎力 ②情報処理力 ③試行力	④問題解決力 ⑤発見力 ⑥創造力	⑦人間関係形成力 ⑧実践力 ⑨自律的活動力
<b>評価方法</b>	・小テスト ・定期テスト ・作品提出	・作品提出 ・授業プリント	・振り返りシート ・授業態度・取り組む姿勢 ・練習枚数

## ■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
<b>前期</b>	基本的な用具・用材の知識や扱い方に関心を持ち、理解させる。前期では、様々な漢字作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を学ぶ。また、文化祭では書道履修者で授業で制作した作品展示を行う。	・毎回の実技作品を評価する。 ・作品の振り返りシートを作成し、内容を評価する。 ・小テストや定期テストを実施する。	教科書書道Ⅰ（光村図書） 授業プリント
<b>後期</b>	前期に引き続き、漢字の書の臨書学習から、創作作品の制作に入る。自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する力を身に付けさせる。また、全体の習熟度に合わせ、仮名の書に入る場合もある。漢字とはまた違った用筆法を学び、鑑賞させる。		

## ■どのように評価されるか、学習のアドバイス

- 1 毎回の授業にしっかりと出席し、授業内で出た課題を提出すること。
- 2 書道に親しみを持ち、意欲的に取り組むこと。
- 3 様々な古典作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を身に付けること。

# 令和8年度 書道Ⅱ シラバス

科目	書道Ⅱ	単位数	2 単位
		対象 部・年次	1・2・3部 4年次

**目標** 書道Ⅰでの学習を基礎とし、書に親しむ活動を通して、書道Ⅱでは自己を表現するための能力を伸ばす。個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

## ■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	書を構成する要素や表現性、表現効果や風趣の視点をもって、実感的に理解を深めさせる。また、個性豊かに表現を工夫し、主体的に活用できる力を身に着けさせる。	書の良さや、美しさを感じ、意図に基づいて個性豊かに表現を工夫し、書的美を味わい、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えさせる。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、感性を高め、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を育てる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期テスト</li> <li>・作品提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品提出</li> <li>・授業プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート</li> <li>・授業態度・取り組む姿勢</li> <li>・練習枚数</li> </ul>

## ■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	書道Ⅱで学習する中国の代表的な古典（楷書・行書）を鑑賞し、特徴を確認する。また、前期で制作した臨書作品を文化祭で展示する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の実技作品を評価する。</li> <li>・作品の振り返りシートを作成し、内容を評価する。</li> <li>・小テストや定期テストを実施する。</li> </ul>	教科書書道Ⅰ（光村図書） 授業プリント
後期	前期に引き続き、漢字の書の臨書学習から、創作作品の制作に入る。創作作品は「刻字」を実施、刻字で用いる用具用材の扱い方に関心を持ち、理解させる。創作作品を制作させることで、作品の鑑賞力を高め、創造力を伸ばす。書道Ⅰよりもさらに多くの古典を学び、さまざまな技法を習得させる。		

## ■どのように評価されるか、学習のアドバイス

- 1 毎回の授業にしっかりと出席し、授業内で出た課題を提出すること。
- 2 書道に親しみをもち、意欲的に取り組むこと。
- 3 様々な古典作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を身に着けること。

# 令和8年度 ペン字硬筆講座 シラバス

科目	ペン字硬筆講座	単位数	1 単位
		対象 部・年次	1・2部 1～4年次

**目標** 硬筆学習を通して美の一つの基本的な在り方である文字を正しく整えて書くことを効果的に表現するために、基礎的・実用的な技能を身に着け、日常生活に役立つ力を養い、書写能力の向上を図る。

## ■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会生活を送る上で必要となる文字の基礎的な技能を身に着けるとともに、日常生活における実用的な書写能力の向上を図る。	実際に習った用筆法・執筆法を使用し、文字の大きさ、全体構成について構想し、手紙文や宛名書きなどを習得させる。	書の伝統・文化と豊かにかかわり、主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
北高力	①基礎力 ②情報処理力 ③試行力	④問題解決力 ⑤発見力 ⑥創造力	⑦人間関係形成力 ⑧実践力 ⑨自律的活動力
評価方法	・小テスト ・定期テスト	・小テスト ・自己評価シート	・提出物 ・自己評価シート

## ■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	まずは基本的な正しい鉛筆・ペンの持ち方、基本点画を習得するとともに、丁寧に書く練習から始め、書く力を高める練習から行う。主に前期は、基本点画からひらがな、カタカナを習得させる。また、普段多く用いられる平易な漢字を点筆順・字形を整えてかけるようにさせる。	・毎回の実技作品を評価を行う。 ・実技作品の自己評価する。 ・小テストで定着度をはかる。	硬筆問題集 自作プリント
後期	前期に引き続き、漢字を点筆順・字形を整えて書く練習を行い習得させる。またその発展として、漢字仮名交じり文を美しく整えて書く練習をさせる。行書体では、楷書体の練習と同様に、字形を整え、美しく書く練習をさせる。楷・行を習得後、現代生活と結びついた「手紙／宛名書き」を学び、習得させる。		

## ■どのように評価されるか、学習のアドバイス

文字を正確に、美しく、そして能率よく書く能力を身に着ける授業内容です。硬筆学習を通して、書くことを楽しみ、日常生活に役立つ力を高めることを意識して取り組みましょう。

# 令和8年度 実用書道 シラバス

科目	実用書道	単位数	1 単位
対象	部・年次	1・2部	2～4年次
目標	書の伝統と文化を学び、硬筆書写における用具用材の特徴を理解する。 また、生涯にわたって書を愛好する心情を育て、社会人としての将来に役立つ表現と鑑賞の能力を伸ばす。		

## ■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会生活を送る上で必要となる文字の基礎的な技能を身に付け、日常生活における実用的な書写能力の向上を図り、美しい文字が書けるように、自己の技量を高め身に付けさせる。	実際に習った用筆法・執筆法を使用し、目的や用途に即した書体、全体構成について構想し、工夫できているか。	生活や社会における書の美の効用と、現代的意義について考え、書く楽しみや美しさ味わって深く捉えられているか。
北高力	①基礎力 ②情報処理力 ③試行力	④問題解決力 ⑤発見力 ⑥創造力	⑦人間関係形成力 ⑧実践力 ⑨自律的活動力
評価方法	・小テスト ・定期テスト	・小テスト ・自己評価シート	・提出物 ・自己評価シート

## ■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	硬筆に関する用具・用材（鉛筆／ボールペン／万年筆／フェルトペン）の知識や扱い方に関心を持ち理解させる。前期では、主に鉛筆による文字を丁寧に書く練習からはじめ、基礎的な技術を身に付ける。手紙文や宛名書きの練習を行う。	・毎回の実技作品を評価する。 ・実技作品の自己評価を行う。 ・小テストで定着度をはかる。	硬筆問題集 自作プリント
後期	前期に引き続き、手紙文や宛名書きを様々な用具・用材を使い比べて練習する。また、履歴書や社用文・諸票記入など、実用書道の技術を高める練習を行う。生活の中の書に求められる技法を学び、あらゆる生活場面で活用している。書が生活のあらゆる場面で生かせることを理解させる。		

## ■どのように評価されるか、学習のアドバイス

硬筆学習を通して、書くことを楽しみ、日常生活に役立つ力を高めることを意識して取り組みましょう。
---